

1 途上国とくに中進国の発展

途上国経済の発展を背景する要因と、EUの動向や先進国の少子化の動向などが絡んで、大学はいま留学生の奪い合いという、世界規模での大競争時代にはいりつつある。

(要因1) グローバル化の加速で、学生のモビリティが高まったということ。1999年から2004年のわずか5年間だけでも、「移動する留学生」は175万人から250万人へ増加した。ほとんどの行き先が、米国、英国、ドイツ、フランス、オーストリア、そして日本である。日本は世界の留学生の5%を受け入れており、重要な教育サービス供給者となっている。

(要因2) BRICsなど途上国が経済成長し、中間層がふえて、大学生が激増したが、大学の数がふえず、結局海外つまり先進国へくるようになった。途上国の学生をふくめて、世界の留学生の数がなんと、2025年には716万人になるとの予想があり、32万人は日本へくるともいわれている。文科省が昨年7月に、「留学生30万人受け入れ計画」を発表したわけだが(現在は実績10万人)、背景にはこのようなグローバルな傾向がある。つまり、途上国とくに中進国の成長というマクロ状況がある。

(要因3) 需要の激増にあわせるかのように、先進国世界でも留学生を受け入れる体制を整備しはじめた。全世界で約17万5千校の大学があるが、米国で約4000校、ドイツ約160校、日本は約1200校(たいへん多い)。そこが、ひしめきあって、数百万人の留学生をうばいあっている。先進国は少子化だから、優秀な留学生をいかにひきつけるかが、大学ビジネスにとって、重要になっている。ヨーロッパ各国は留学生政策をうちだして、予算もたくさんつけている。旗だけ振って、大学予算を減らしているのが、日本の状況である。医療も「低医療費政策」「医療費抑制政策」で、病院が崩壊の危機に直面しているのだが、大学も似ている状況があるように思われる。

(要因4) EUの動向が重要である。いまやEUでは、EUという地域全体で通用する「国際人」養成にシフトしていて、「ドイツやフランスといった自国だけで通用する人材でよい」という発想は大学から消えつつあるらしい。

以上、最近他大学へ異動された同僚の綿貫健治教授が経済学部の同窓会誌『富丘会報』No.135(2008年12月号)にかかれた記事「横浜国立大学がランクインしたタイムズ世界大学ランキングについて(最終回)」を参照した。この記事も是非お読みください。

2 大学ランキングの登場

このように流動化がすすむと、大学ランキング(格付け)が重要になる。

一般に、資本の国際的流動化がすすみ、国際的M&Aがふえると、会社のランキングや透明性や時価会計が重要になるといえよう。要するに、会社を買収するときの品質保証をせよ、ということであろう。中身が不透明な会社は、買いたくないということである。病院も、アジアの途上国でも、そしておそらく日本でも、最近を買収の対象だから、透明性が要求されている。医師は、ベッドサイドにいて患者さんのケアをする時間をけずって、情報公開用の書類作成におわれているというマスメディア報道を、散見する。患者さんのための透明性ではなく、株主・投資家向けの透明性追求の面も、あるように見える。

ただ、その透明性が、患者さんを益する面もあるので、全面的に否定することはないといえよう。

大学も、透明性や格付けが重要になっていて、それは学生や留学生向けというよりは、投資家向けかもしれない。いずれ大学もM&Aの対象にどんどんなっていくかもしれない。しかし、その透明性や競争力強化が、投資家だけでなく、学生の利益に結果する面もあるので、全否定することはないだろう。

そこでランキングだが、「タイムズ世界大学ランキング」というのがある。トップ10は、ハーバード大(1位)、イエール大(2位)、ケンブリッジ大学(3位)、オクスフォード大学(4位)などとなり、東京大学でやっと19位。「なんだ、日本の最高学府が19位か」と残念におもわれるかもしれないが、世界に17万5千近い大学があるといわれているなかで、トップ500位にはいるだけでも、すごい話なのである。ましてや、日本政府の教育・医療・文化軽視の中での、19位への食い込みは、すばらしいことであろう。ほか、京都大学で25位、慶応大学でやっと214位、千葉大学で298位、熊本大学で378位などとなっている。われわれの横国大も、医学部も法学部も文学部もないという、つまり総合大学でないという「構え」にもかかわらず、390位と健闘している。

毎年順位はいれかわる。ランキング事務局への売り込み、マーケティングが重要で、それをおこたると、ランキングが下がる。とにかく、トップ500にはいることは、至難である。

3 国際競争力をいかにつけるか

経済構造がサービス化してきているので、従来ビジネスでなかったようなサービス領域に、どんどん資本が流れこみ、ビジネス化していく。大学が斬った張ったのビジネスの世界になっていくのであろうか?

とくに日本の場合、そのグローバル・サバイバル競争に、丸腰でというか、低予算で参戦せね

ばならぬという、特殊事情がある。なぜなら、財政がどうしても旧来型産業の利害誘導に傾斜しており、無駄なダムや道路などに予算がいつてしまつて、最先端の研究・教育といった新しい産業への予算がなかなか増えないからである。旧国立大学への予算については、確実に減る一方なのである。経営改善係数があり、毎年マイナス1%である。

医療費抑制の枠組みの下、診療報酬制度の改正（改悪）や、新臨床研修制度などいろいろな要因がからみあって、病院経営が危機に陥り、大都市部で「救急車たらいまわし」状況が生じている。大学は、「学生たらいまわし」にはなっていないが、近い将来「研究たらいまわし」になる危険性がないだろうか。教授が国際化対応業務などであまりに多忙になると、ビジネス界からの研究協力要請など、これ以上受容できなく。高等教育や高度な研究に、予算を減らすのか、増やすのか、これは日本という国のカタチを今後どうするかにかかっている。世界は「知識経済」で競争しはじめているなか、日本はまだコンクリートで無駄なダムをつくっているわけで、間が抜けていると感じるのは、私だけであろうか。むろん、ダムは、地域の雇用維持つまり失対（失業対策）のための「必要悪」だという意見があるのは承知している。

4 まごころを忘れてよいか

いくら高等教育予算を増額して、「知識経済」対応にかえるといつても、「まごころ」をうしなつてはいけぬ。仮に、現政権では、「知識経済」時代の国際競争で、他国に打ち勝てないとしましよう。仮に、仮にですね、別の〇〇党なら（架空）、「知識経済」時代にやっつけようとしましよう。ではその〇〇党には「まごころ」があるか、ということに次に問う必要があります。〇〇党なら、大学予算がふえて、「タイムズ世界ランキング」もあがるかもしれない。しかし、そうやってランキングがあがるのが、本当にに学生や留学生への「まごころ」のある教育に結果するか。結果する面もあるし、あやしい面もある。このあたりをよく考えなければならぬと、これは教員として自戒しています。

2009年、未曾有の経済危機のなか、日本の政策の根底から大転換が求められる。環境、医療、教育、産業、国際競争力政策、年金・福祉、農業などなど、すべてにわたつて。転換課題は、二重でありましよう。

第1に、グローバル化に対応すべきは対応し、世界の傾向においつくこと。グローバル資本主義が終わつた面もあるので、その「終焉した」というグローバル傾向にも対応する。新自由主義、市場原理主義が終わるような気配である。その終焉、つまり新しい「規制強化の時代」に、対応するということが求められます。規制が強化されつつ、産業構造は、サービス、知識、環境、農業重視へと、いずれ、きりかわつていく。それに対応した、日本経済の新しい国際競争力を模索していく。

書いていることが、混乱しているかもしれませんが、つまりギャンブル的金融に偏重したグローバル経済が終わるといふ、そういうグローバル傾向にあわせるということです（注：ヘッジファンドに、投機だけでなく、安定化機能があることは、否定しません）。合わせ方は、日本なりの独自のやり方でありましよう。

大学に即して言えば、留学生30万人に選んでもらえる大学にせねばなりません。その改革は、日本人学生にとつてもプラスでなければなりません。そのときに、英語での授業以外に、日本独自の、つまり日本語での講義をどう維持して、日本らしさを出しながら、どう競争力を維持するか。日本語の講義ばかりでは、留学生は30万人も、来ない。しかし英語ばかりにしてよいのか。

第2に、「まごころ」のある政策にすること。国際競争力政策と整合する面と矛盾する面の両面があると思われる。矛盾する点については、がんばつて調整する。

大学を利潤追求のビジネス路線から切り離して、「まごころ」路線で牧歌的にいきたいとおもうこともあるが、ビジネス路線にシフトしており、後戻りはないと思われます。

ただ、ここが教育ビジネスの不思議な面ですが、「まごころ」を失うと、ビジネスとしても失敗する。大学の場合、国際競争力の構成要素に、「まごころ」がはいっている。家内が医師なので、気になるのだが、病院経営も同じだろう。だから、最近の世界規模での大学間競争の様相に、失望することもないと思ひます。

「まごころ」と、あとは短期的関心にとらわれない、長期的視野からの真理追究という機能も、捨てるはいけぬ。実学志向に偏重すると、思わぬ落とし穴に落ちる危険性がある。大学の英語教育に民間の英会話学校をそのまま導入するようになっています。しかし、シェイクスピア時代の語源学を教える先生もいてよいはずで、バランスが求められている。